



大樹のこころ

自然とふれあう

今の子どもたちには、自然体験が乏しいことは否定できません。自分が子供だった頃は、毎日近所の野原で野球や缶蹴りをしたり、森で昆虫採集を行ったりすることが当たり前でした。ところが現在は、野原もなくなりゲームやスマホの浸透もあって、室内で生活することが多くなってきています。時代の流れですので「昔が良かった」と単純に言うつもりはありませんが、体験的な活動というのは、子どもたちに実感を伴った学びをもたらすという意味で必要なことだと思います。

生活の場で体験的な活動の機会が減った今、数少ない経験の場として学校での授業が挙げられます。本校の1年生の先生方が、子どもたちに動物とのふれあい体験をもたせたいとの思いをもち、岡崎市動物総合センターAmino への校外学習を計画しました。東公園までは貸し切りバスでの移動です。たっぷり体験活動の時間を取りたいということで、お弁当持参の1日かけての校外学習。ちょっとした遠足といったものでしょうか。子どもたちも楽しみにしていたようで、当日の欠席者がほとんどいませんでした(笑)。

東公園に到着すると、「木製遊具広場」「鹿の餌やり」「動物ふれあい広場」「Animo」の4か所に分かれて、クラスごとに活動します。どれも体験活動ばかりです。学校にはない遊具で遊んだり、いろいろな飼育小屋を回って動物の様子を見学したりします。東公園の人気者ゾウのふじ子が厩舎の中に見ることができなかったのですが、見学途中からその姿を現すと子どもたちは大喜びです。鹿の餌やり体験では、にんじんを鹿に与えていきます。自分が出したにんじんを鹿が食べると「嬉しい」「かわいい」といった声が上がります。こうした子どもたちの姿を見ると、ついつい笑顔がこぼれてしまいます。

今回の校外学習のメインイベントは Animo でのモルモットとのふれあい体験です。Animo の館内に足を踏み入ると「大樹寺小学校様ようこそ」の札が。何だか嬉しくなります。Animo の指導員さんの教えに従ってのモルモットとのふれあい体験。最初は恐る恐るといった様子の子供たちでしたが、徐々に慣れていき、平気で触れるようになってきました。こうしたところに「学び」があるのです。

デジタル機器などを活用した学習の必要性が叫ばれていますが、こうした時代だからこそ、体感を伴う学びを忘れてはならないと思います。子どもたちの健やかな成長を願い、自然とふれあう機会を設けていきたいものです。

